

神奈川県域における乳幼児健診システム ーコンピューターの利用についてー

山 徳 み え

要約：母子保健に関する情報には種々のものがあるが、健診結果もその一つである。地域の乳幼児の心身の健康を捕らえるには最も有用であるが、現在そのデータを十分活用しているとはいえない。又、将来においてもその膨大な数のデータを管理集計するためにコンピューターの利用は必須といえる。そこで乳幼児健診を実施している担当機関でのコンピューター利用状況について調べてみた。

見出し語：乳幼児健診

現況

神奈川県には17市16町1村あり、この内、政令市が3市である。他県と同様、政令市を除くと乳幼児健診のうち、3カ月、お誕生前、3才児健診の実施主体は県で1才6カ月健診は市町村である。健診方法は県域の保健所では3カ月3才児健診を集団方式で施行し、お誕生前は医療機関へ委託し個別方式で、やられている。1才6カ月健診は市町村によって方式は異なっている。県域の保健所および政令市では現在コンピューターは全く利用していない。受診率は63年度について見ると表 のようである。1才

6カ月健診はすべての市町村で実施しており、1市1町では6カ月健診も実施している。コンピューターの利用については対象児の把握のためのみが5市、現在データベースを作り、健診結果についてもデータバンクシステム化しているのが1市1町ある。この内の1市は人口518631人対象児数6000／年で61年4月にシステムを開始、6カ月、1才6カ月健診を委託医療機関で実施、その結果を入力している。妊娠中、3カ月、3才児については保健所より異常データのみ受け入力している。入力者は専任のキーパンチャーで他の業務もあわせて2日間で1

神奈川県 厚木保健所
(Atsugi Health Center, Kanagawa Prefecture)

月分を入力している。現況活用はまだできていないが統計活用は、やっている。1町は昭和大学医学部公衆衛生学教室に委託して開始している。活用はまだやっていない。

将来、システムを導入する予定のある市町村は3市で、これらの市は、既に具体的に計画も立てている。

3ヶ月児健康診査（事業開始昭和42年度）

年度 保健所	区分	対象児	受診児	受診率
		人	人	%
61		30,159	25,189	83.5
62		30,183	25,500	84.5
63	県保健所	30,821	25,979	84.3
	横浜市	35,572	30,209	84.9
	川崎市	13,866	13,220	95.3
	横須賀市	3,888	3,785	97.4
	計	84,147	73,193	87.0

お誕生前健康診査（事業開始昭和44年度）

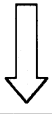
年度 保健所	区分	対象児	受診児	受診率
		人	人	%
61		30,583	26,077	85.3
62		30,294	25,161	83.1
63		30,460	25,543	83.9

3才児健康診査（事業開始昭和37年度）

年度 保健所	区分	対象児	受診児	受診率
		人	人	%
61		34,451	27,246	79.1
62		33,637	26,642	79.2
63	県保健所	32,451	26,036	80.2
	横浜市	38,079	27,969	73.4
	川崎市	13,319	11,322	85.0
	横須賀市	4,254	3,995	93.9
	計	88,103	69,322	78.7

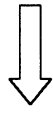
1才6ヶ月児健康診査（事業開始昭和52年度）

区分 年度	実 施 市 町 村 数	対象児数	一 般 分	
			受診数	受診率
61	34	人	人	%
61	34	32,619	28,600	87.7
62	34	32,140	27,927	86.9
63	34	31,421	27,939	88.9



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母子保健に関する情報には種々のものがあるが、健診結果もその一つである。地域の乳幼児の心身の健康を捕らえるには最も有用であるが、現在そのデータを十分活用しているとはいえない。又・将来においてもその膨大な数のデータを管理集計するためにコンピューターの利用は必須といえる。そこで乳幼児健診を実施している担当機関でのコンピューター利用状況について調べてみた。